



KSK あまねだより



(頒価 20 円)

発行 神奈川県障害者定期刊行物協会
222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3階
横浜市車椅子の会内

編集 あまね共同作業所
239-0805 横須賀市舟倉 1-12-1
TEL 046-835-0723 FAX 046-833-4062
2018年9月13日 第412号

第5期横須賀市障害福祉計画の研修会をおこないました

8月3日に横須賀・三浦作業所連絡会主催の研修会を開催しました。研修のテーマは今年度からスタートした「第5期横須賀市障害福祉計画」について、横須賀市障害福祉課の網代氏を講師に招き、説明していただきました。また、第5期障害福祉計画の中で「今年度中に関係機関と協議して決めていく。」と明記された基幹相談支援センターについて、障害とくらしの支援協議会の委員で相談支援体制に関する検討会のメンバーでもある海原泰江氏より、検討会で横須賀市から示された「障害相談支援体制の今後の方針について」説明をしていただきました。

第5期横須賀市障害福祉計画の中で、障害者総合支援法の主たるテーマでもある施設から地域移行の目標値12人(平成29年末までに)だったが、実績としては3人に留まり、改めて地域移行が進んでいないことが明らかになりました。地域移行が進まない原因として、参加者から「施設に入所されている方や家族が、地域に移行する具体的な場であるグループホームの暮らしがイメージできないのではないか? また体験型のグループホーム、体験用の空き室を持つグループホームがないことも地域移行が進まない原因ではないか。」という意見が出されました。

日中活動や働く場として生活介護や就労継続支援事業については、増加をする見込量を横須賀市は示しているが、地域作業所や地域活動支援センターについては、現状維持の見込数で、基本的な横須賀市のスタンスは今後増加する利用者は、障害福祉サービスの事業で対応していくとのこと。しかし、参加者からは、「県内で就労継続支援B型の報酬単価減額等による利用者切り捨ての問題が取り立たされていて、この3年の状況を見て、地域作業所や地域活動支援センターを横須賀市が率先して整備しなければいけないのではないか。」と意見が出されました。

基幹相談支援センターについては、計画の中では、「30年度中に関係団体と協議をして検討する。」と明記され、相談支援検討会のメンバーでもある海原泰江氏より、横須賀市から示された3つの案の説明をしていただきました。内容については次の機会にご紹介いたします。

8月17日、ニュース、新聞で驚くべき報道がされました。もう皆様もご存じのことと思われませんが、国の行政機関の省庁で障害者手帳のない人も障害者雇用としてカウント水増しをしていた問題が発覚しました。それも40年以上にわたり行われていたとのこと。その後も中央省庁だけでなく、地方自治体でも同様に水増しが常態になっていたことが明らかになりました。(中央省庁の水増し合計人数は3460人。厚労省28日発表)

行政の障害者法定雇用率は2.5%で障害者手帳を所持しているだけのカウントでは、1%未満になってしまう省庁もあったとのこと。法定雇用率を下回る民間企業には、ペナルティの給付金を課されますが、行政には給付金はなく、経済界からも相次ぐ批判の声が上がっています。徹底した第三者による実態調査を実施し、行政が障害者手帳所持者による法定雇用率の遵守、守れなかった場合、民間と同様に給付金を課し、その給付金を障害者の就労支援の財源に充てるなどの措置をすべきではないかと思えます。(文責 山田)

ヘルパー募集

社会福祉法人あまねでは、ヘルパーを募集しています。内容は知的に障がいのある人への外出支援になります。

ヘルパー資格
をお持ちの方で、やる気のある方を募集しています。時間等も週一回、一時間から相談に応じます。
問合せ等 046-833-2919 角田まで

資源回収ご協力ありがとうございます

2018年7月実施分は
21,930kgでした
(奨励金は87,700円)

今回の日程は別紙にて
お知らせします。
問い合わせは9:00以降に
お願いいたします。

☆スケジュール(9月)

- 5日 生活介護グループ活動
- 7日 資源回収 岩戸・池田
- 8日 資源回収 舟倉・若宮台
- 21日 きょうされん全国大会京都
- 22日
- 26日 クラブ活動

☆バザーの予定

- 6日 COOP
- 15日 岩塚祭
- 25日 通研
- 27日 さくらの会
- 29日 大楠高校文化祭
- 30日 動物フェスティバル

【ありがとうございます】

太田様、ファミリア藤原様、角田様
ダイシン様、くぼた様、狩野様
竹内様、奥村様、秋元様(順不同)

資源回収の折、バザー用品や寄付などを頂きます。お名前を記せませんが、有効に活用させていただきます。





作業所の一曰

とにかく・・・暑い！！



今年は平成最後の夏でしたね。それを記念するかのように記録的な猛暑日が続きました。体調を崩さないように皆さまも日々気を付けていらっしゃったのではないのでしょうか。

7月の知的部会(複数の作業所職員で集まる会議)でも、この暑さをどう乗り切るか?利用者への対応は?という議題がありました。中には畑で野菜を育てている作業所もあるので、農作業の合間にいつも以上に休憩や水分補給をこまめに促していくしかないと話していました。

日を追うごとに危惧していた暑さが現実になり、あまねでも散歩の休止・休憩時間や徒歩通所の仲間には来た時と帰る前に塩分タブレットを麦茶とともに提供する等の対策を実施していました。

あまねの仲間には自発的に「疲れたから休憩する」「日差しが強いから日陰を歩く」「のどが渴いたから水を飲む」という、いわゆる熱中症対策の行動自体が難しい人が多いです。誘導すれば日陰を歩き、お茶を渡せば飲んでくれますが、この自発的に行うという事がとても困難なのです。その為、職員が積極的に水分補給を促していかないと、いつまでも飲まないで過ごせてしまうのです。また塩分タブレットも元々ラムネが嫌いな人は食べられないので、熱中症対策の難しさを感じました。

本人の感覚では水分を飲まないで過ごせても、体はそうはいきません。熱中症で搬送されたという毎日のニュースの中には、障害ゆえに熱中症を引き起こして倒れてしまった方もいたのではないかと感じました。倒れるのは自己責任かと思われてしまいがちですが、自分から水を飲む・休憩するという事が難しい人もいるのだとご理解頂けたら幸いです。



仲間たちの未来について・・・



4月から養護学校を卒業した仲間が2人増えました。早くも4カ月が経ち、2人とも毎日頑張ってお仕事をしてくれています。

18歳の仲間を見ていると、幼少期から家族以外の支援を受けているからこそその柔軟性を日々垣間見られます。送迎業者やヘルパーのこだわりもなく、外部への宿泊も出来ています。それはすごい事なのです。ずっとヘルパーの利用をした事がな

い人が、いきなり利用できるはずもありません。本人が今まで家族・作業所職員以外と関わっていない場合、見ず知らずの人を拒否するのも当然です。


今、40代後半以上の人たちは、幼い頃、現況の障害者サービスを受けられなかった世代です。行政から差し出される手もほとんど無いまま、世間の偏見にさらされ、今のように本やインターネットからの情報があるわけでもない。そうして懸命に育てられていく中で「家族以外にこの子を見てもらうなんて申し訳ない」「この子は死ぬまで自分が見なければ」と思いを抱えていらっしゃる親御さんがいるのは致し方ない事です。むしろそういう考えに至らせてしまった国や周囲の理解の無さに責任の一端があるとも感じます。そして今の障害者支援・サービスの充実は、この世代の親御さん方が訴えてきた賜物であることも忘れてはいけません。

それでも親御さんの方が年を重ねていく中で、どうしても出来なくなってくる部分が出てきます。それを今ある支援・サービスからどう選んで受けていくか、ご本人はもちろんご家族が納得して欲しいと思います。

余談ですが、介護施設に勤務している時に急遽入所された方がいらっしゃいました。その方は寝たきりにも関わらず、何の介護サービスも受けずにご主人が全ての事をされていました。そのご主人が急逝され、やむを得ず特養に入所されたのです。きっとご主人が望む形ではなかっただろうと思いました。体に褥瘡ひとつないほど献身的な介護をされていた方ならば、もっと熟考して施設を決めたかっただろうな...と。

こういった経験から、親御さんには「自分にもしもの事があつた後にやむを得ず空いていた施設に入れる」という事態は、後悔がきっと残ってしまうので、迎えて欲しくありません。大切なお子さんを託す場所を探すのに、早すぎるという事はないのです。私たち支援者は、少しでも施設やグループホーム等の選択肢を増やせるよう行政に訴えていかなければならないと思います。(記 松本)

おいしいお茶はいかがですか?
 牧之原台地で太陽の光をいっぱい
 受けて育った緑茶を取り扱っております



200g 1000円

ご注文は作業所まで
046-836-2677

ふきん販売に
ご協力ください!
 布地8枚重ね 3枚組
660円
 ご注文は作業所まで
046-836-2677